

ネットいじめ対策

SNSの正しい使い方

台丸谷 和 美 五所川原第一高等学校

I. はじめに

ウィルスバスターなど、セキュリティ関連製品メーカーのトレンドマイクロが、インターネットを利用する小・中学生の保護者を対象に調査したデータを見てみると、保護者が子供にケータイやスマホを使用させる理由は、

日常生活で家族と連絡を取るため・・・90.5%

有事の際の緊急連絡ができるようにするため・・・70.2%

など、家族との連絡を意図したものが上位となっている。しかし、子供は

子ども同士で連絡を取るため・・・31.0%

友達が持っているので・・・14.9%

となっている。

家族との連絡や子どもの仲間外れ防止にスマホは必要であり、インターネット利用による危険から身を守ってほしいという保護者は多いが、子どもたちへのネットモラル教育は進んでいるとは決して言えない。スマホ・ケータイの使い方については、保護者もしっかりとした使用方法を学ぶ機会を設けることも必要であり、学校と家庭が連携していじめをしない、いじめにあわないようにするためにできることは何かを探求していく必要があるのではないだろうか。

II. 研究主題について

1. 主題設定の理由

高校生の大多数が使用しているスマートフォン、便利な機能が手のひらサイズに凝縮された便利な道具ではあり、最近ではウェアラブル端末が実用化されつつある。しかし、スマートフォンやケータイの正しい使用法は、誰も指導してくれないため、高校生は何が正しいのか判断ができないのではないだろうか。高校で指導すべきことなのか疑問は残るが、いじめなどのトラブルにスマートフォンやケータイを利用するのではなく、正しく便利にSNSを使用することを指導することに必要性を感じたことから主題を設定した。

2. 研究のねらい

本校の生徒のスマートフォン、ケータイの使用状態についてアンケート調査により現状を把握し、利用状態を分析する。また、トラブルにつながる事例を挙げ、注意すべきことをまとめて生徒用の読本を作成する。各事例についてトラブル防止のために、保護者ができることをまとめて保護者用の読本を作成する。その際、保護者が理解できるように、スマホ・ケータイ用語に関するミニ知識を加える工夫をする。さらに、スマートフォン、ケータイの利用に関するルールについて、家庭でのルールを含めて具体的にまとめる。

以上のように、本校独自の読本作成とルール作りをすることで、スマートフォン、ケータイの正しい使用について指導することを研究のねらいとする。

Ⅲ. 研究方法

1. 研究推進のための基本方針

研究を進めるにあたり、「ネットいじめ対策研究会」を組織する。この研究会は、年 5 回の会議を設けて次のテーマについて討議してまとめていく。

- ① アンケート調査に基づくスマホ・ケータイの利用状況並びにトラブルの分析
- ② ネットいじめのケースごとに対策についてまとめる
- ③ 生徒用にスマホ・ケータイの使い方についてまとめる
- ④ 保護者用ができるいじめ対策をまとめる
- ⑤ 教師が生徒に指導できる手引書についてまとめる

これらの研究会活動を通じて、スマートフォン、ケータイの正しい使い方について、生徒用並びに保護者用の読本を作成する。

2. 研究会組織

ネットいじめ対策研究会は本校より 3 名、県内私立高校より 3 名、計 6 名で構成する。



Ⅳ. 研究内容

1. スマホ・ケータイに関するアンケート調査

本校全生徒に対して、スマートフォン、ケータイの使用状況把握のためアンケート調査を行う。アンケートの内容として、10項目の質問事項に、7つの小問の内容で調査を実施した。中には、実際のSNS上のトラブル体験について、ネットで知り合った人と会ったことがあるか、などについても把握する内容とした。

2. 生徒用スマホ・ケータイ読本の作成

スマホ・ケータイのトラブル事例として、

- | | |
|-------------------|-------------------|
| ① 無料通話アプリでのいじめ | ② プライバシーの侵害 |
| ③ コミュニティサイトでの悪ふざけ | ④ コミュニティサイトでなりすまし |
| ⑤ 不正アプリで被害 | ⑥ ゲームアプリで高額請求 |
| ⑦ コミュニティサイト性犯罪被害 | ⑧ 不正アクセスで検挙 |
| ⑨ インターネットで犯行予告 | |

を挙げ、それぞれの注意点についてイラストを交えながらわかりやすくまとめた。

3. 保護者用スマホ・ケータイ読本の作成

保護者用の読本については、内容は生徒用と同一とするが、保護者の立場からトラブルを防止するためにできることを事例ごとにまとめた。さらに、保護者はスマホ・ケータイに関する用語に詳しくないため、用語に関するミニ知識を加える工夫し、読本としてまとめる。

4. スマホ・ケータイのルール作成

スマホ・ケータイのルールとして、重要事項8項目、その他の具体例として15のチェック項目、さらに各家庭用のルールとして3つからなる基本的なルールを作成する。

V. 考察

1. 防災教育アンケート調査の結果と考察

(1) スマホ・ケータイで一番利用する機能は何ですか

低学年の生徒になるにつれて、SNSを利用する割合が特に女子で高くなる傾向があり、男子ではゲームアプリの利用が高い傾向がみられる。全体的に、スマートフォン、ケータイは通話やメールよりもゲームやSNSで利用する割合が高くなっている。

(2) プロフィール・ブログの公開経験はありますか

プロフィールやブログの公開の経験については、各学年とも女子の公開経験の割合が高くなっている。また、嫌な書き込みがある経験は、思った以上に少ない。

(3) スマホ・ケータイのフィルタリングを設定していますか

フィルタリングについては、している生徒としていない生徒もいるが、「わからない」と回答する生徒がいる。特に女子生徒に多く、フィルタリング設定の目的を理解できていないことがわかる。していない生徒は、フィルタリングにより機能が制限されることを嫌うためだと思われる。

(4) ネットで知り合った人と会ったことがありますか

「ない」と回答した生徒の割合が高いことがわかる。しかし、「ある」と回答した生徒の中で、「身の危険を感じない」生徒の割合が高いことが気になる。ネット上で知り合った人の中には犯罪に関係する人が多いとされているが、生徒はそのような意識はなく気軽な感覚で会っているようにも思える。中には「危険を感じた」と回答する生徒がいることから、「どんなことに対して危険を感じたのか」を記述してもらう必要があったのではないかと思われる。

(5) ネットトラブルにあった場合、誰に相談しますか

トラブルにあった場合、「友達」「保護者」に相談すると回答した生徒が全体的に多い。しかし、友達がトラブルを解決できる方法を知っているとは思えず、もちろん保護者も対処法を知っているとも思えない。生徒は、トラブル解決のために相談しているのではないかと思われる。また、トラブルを誰にも「相談しない」と回答している生徒もおり、解決しようとする意思が感じられず、トラブルを軽視している可能性もある。トラブルによっては「友達」「保護者」が相談相手で良い場合もあるが、トラブルの内容によっては専門家や警察への相談もあり得る。トラブルの種類によって相談相手を選択する判断が高校生ができるはずもなく、相談相手をどうすべきかを教師がアドバイスできる環境づくりをする必要があるのではないだろうか。

(6) メールでトラブルや嫌な思いをしたことはありますか

メールでトラブルや嫌な思いをしても相談しない生徒が多いと予想されたが、アンケートではどの学年も嫌な思いをした生徒が少なかった。無料通話アプリが普及する以前は、メールでのトラブルが多くみられ、それが原因で不登校となる生徒もいた。無料通話アプリが普及してからは、トラブルとなる内容の書き込みがメールからSNSに移行したのではないかと考えられる。実際、「スマートフォンやケータイで最も利用する機能は何ですか」という質問の回答を見ると、メールよりもSNSの割合が高いことからわかる。

(7) 無料通話アプリでトラブルや嫌な思いをしたことがありますか

無料通話アプリでのトラブルは、ほとんどないことがわかる。一般的に無料通話アプリで多い「はずし」「スルー」「追放」は、ほとんどなく間違った利用がないことがわかる。無料通話アプリは、本校の生徒は問題となるような使用がなく、正しい使い方ができていると思われる。

(8) スマホ・ケータイの利用について、保護者を決めたルールがありますか

「有料なもの禁止」「アクセス制御」「食事時の使用禁止」「物品を購入しない」というルールを決めているところが多い。生徒の人数を考えると、ルールを決めているという回答をした人数はかなり少なく、逆にルールを決めていない生徒と保護者が多いことがわかる。

(9) 家で勉強している最中に、無料通話アプリの受信があったらどうしていますか

家で勉強している最中に無料通話アプリの受信があった場合、2年生と3年生は「既読して返信する」と回答した割合が「返信しない」と回答した生徒よりも多く、1年生は逆に「既読して返信しない」「既読しない」という割合が高くなっている。また、「電源OFF」と回答した生徒は、どの学年も少なく勉強の最中でも「電源ON」の状態であることがわかる。このことから、生徒は「電源OFF」の習慣が身につけていないことがわかる。

(10) 家で食事の最中に、無料通話アプリの受信があったらどうしていますか

食事に無料通話アプリの受信があった場合、3年生では「既読して返信する」割合が高くなっている。1年生では、勉強中と同様に「既読しない」割合が高くなっている。

VI. 研究のまとめと今後の課題

SNSに関する知識は、教師や保護者よりも生徒の方が豊富であり、スマートフォンやケータイの操作に関しても生徒の方が得意としている現状では、なかなか指導が難しい状況である。これから新たなコミュニケーションツールのSNSが開発されることが予想され、多くの中高生に利用される可能性があり、使用方法を間違えるとトラブルにつながることもなると思われる。

この研究をきっかけに、教師がもっと生徒のスマートフォンやケータイの使用に関心を持ち、学校全体でスマートフォンやケータイによるいじめの対策に取り組む必要性を感じた。また、生徒だけではなく保護者にもいじめにスマートフォンやケータイを利用させないための知識を指導する必要性も感じた。教師、生徒、保護者が連携することでスマートフォンやケータイによるいじめがない学校を築きあげることができる。